

台風8号に対する農作物の技術対策

平成26年 7月 7日
技術支援課普及指導室

1 普通作物

(1) 水 稲

① 事前対策

- ア 大雨に対応できるよう、用排水路の点検・補修整備を行う。
- イ 風雨による影響を軽減させるため、台風前は湛水状態としておく。

② 事後対策

- ア 風がやむまで湛水状態としておくが、冠水時や土砂が流入した場合は、速やかに排水、排出し、生育の回復を図る。
- イ 冠水したり暴風雨を受けると、白葉枯病やいもち病が発生しやすいので、発生動向に留意し、適切な防除に努める。
- ウ 台風通過後の高温等に十分留意し、適切な水管理を行う。

(2) 大 豆

① 事前対策

- ア 水田では用排水路の点検・補修整備を行い、ほ場への水や土砂の流入を防止する。また、ほ場内に排水溝を整備するなどの対策を講じておく。

② 事後対策

- ア 冠水及び滞水したほ場は、速やかに排水し、根の機能回復を図る。
- イ 台風通過後は、ほ場状況に応じて、中耕・培土の実施や追肥等により生育の回復を図る。

2 工芸作物

(1) コンニャク

① 事前対策

- ア 土砂の流出入防止のために排水溝の手直しを行うとともに、必要に応じて土のうなどを設置する。
- イ 腐敗病や葉枯病等の罹病株は、軽微なものでも伝染源となりやすいため、あらかじめ取り除いておく。

② 事後対策

- ア 滞水、土砂の流入があった場合は、湿害や根腐病の発生を助長するため速やかに排水させる。
- イ 作土が流失し種いもや根が露出した場合は、早急に土寄せを行う。
- ウ 強風による倒伏は出来るだけ早く、高年生のものから順次手で起こし、小葉の反転を手直し後、ただちに病害の発生を防止するため適用農薬を散布する。

(2) タラノキ

① 事前対策

- ア 倒伏が予想される風当たりの強いほ場では、予め杭とロープ等で固定する。
- イ 土砂の流出入防止のために排水溝の手直しを行うとともに、必要に応じて土のうなどを設置する。
- ウ 風雨によりそうか病の発生が助長されるため、病葉はあらかじめ取り除き処分する。

② 事後対策

- ア 強風による倒伏は、新梢が屈曲しないうちにできるだけ早めに手直しする。
- イ 滞水、土砂の流入があった場合は、湿害の発生を助長するため速やかに排水させる。
- ウ そうか病の発生が認められるほ場では、早めに適用薬剤を散布する。

3 畜産

(1) 飼料作物

① 事前対策

- ア 降雨により、草地や飼料畑に水や土砂が流入する恐れがある場合は、防水や排水対策を実施する。

飼料イネについては、水稻の項を参照。

② 事後対策

- ア 飼料用トウモロコシ

水田に栽培している場合は、排水対策が重要となる。降雨のためほ場に滞水している場合は、速やかに側溝を設けて排水を行い、湿害による生育不良を最小限に食い止める。

- イ ソルガム

基本的にトウモロコシと同様に対応する。

- ウ 牧草類

台風の風による被害は比較的少ないものと考えられるが、生育が進み草丈が伸びているものは倒伏が心配される。この場合は速やかに刈り取りを行い、茎葉の汚染状況を見ながら利用する。

(2) 家畜、畜舎及び付属施設の風雨対策

① 事前対策

- ア 畜舎への風雨被害を防止するため、屋根、窓や入り口の点検を行い、必要があれば補修や補強等を実施する。雨や風が畜舎内に吹き込まないように戸締まりを行う。

- イ 堆肥舎やハウスかく拌処理施設への風雨被害を防止するため、施設の事前点検を実施し、窓や入り口は戸締まりを行う。雨水の施設内流入や尿汚水が流出しないよう施設及び堆肥の管理を行う。

- ウ 飼料庫、農業機械・器具格納庫

風雨被害を防止するため点検を行い、必要があれば補修や補強を実施する。飼料、農業機械・器具は雨にさらされないよう管理する。

② 事後対策

- ア 雨が畜舎内に吹き込んだ場合は、敷料等の交換を行って畜舎内を乾燥状態に保つ。

- イ 飼料養分の低下した飼料作物を給与する場合にあたっては、栄養価、嗜好性にも配慮し、家畜の生産性が低下しないように注意する。

4 野菜

(1) 共通事項

① 事前対策

- アハウスの被覆資材など傷んでいる箇所は、風雨が吹き込むので修復しておく。また、ゆるんでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。

- イ 雨水がたまりやすいほ場は、事前に排水溝を掘っておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように土のう積み等の防水対策を図る。

- ウ 露地野菜の支柱や誘引線、ほ場まわりの防風網はあらかじめ補強しておく。

エ 果菜類等で収穫期に達しているものはやや早めに収穫し、被害を最小限に抑える。

② 事後対策

ア 하우스施設やほ場に浸水した場合は、早期に排水溝を掘り排水に努める。

イ ハウスや支柱・防風網を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。

ウ 茎葉の損傷、湿度の高まりにより、病害の発生が助長されるので適用農薬を散布する。使用方法をよく確認して使用時期の収穫前日数に注意する。

エ 天候回復後、草勢回復のために追肥の施用や液肥の葉面散布を行う。

オ 排水後土壌表面が固結しているほ場では、土壌が乾燥しほ場に入ることが可能になったら土壌表面を浅く中耕する。

カ 果菜類で被害を受けた果実は摘果して草勢回復を図る。

キ 倒伏した果菜類の株は可能な限り起こすとともに、支柱や誘引線への誘引を行う。またネギが倒伏した場合はできるだけ起こし、軟白部が曲がるのを防ぐ。

ク 台風通過後は吹き返しの強風に充分注意する。

ケ ハウス施設では、台風通過後に天気が急激に回復すると、ハウス内が高温となるので、天窓やサイド換気をすみやかに行う。また遮光ネットの利用や葉水を行い強光による葉焼けやしおれを防止する。

5 果 樹

① 事前対策

ア 多目的防災網や防風ネットの緩んでいるワイヤーや紐は張り直し、ずれたり飛ばされないように整備する。また、防災網や防風ネットの破れている部分は補修する。

イ トレリスは、隅柱と中柱の横ぶれや架線の張り等を点検し、必要に応じて締め直す。

ウ ブドウやオウトウの雨除け施設は、ビニールが飛ばされないように補強するか、場合によっては除去する。

エ 幼木やわい性台リングゴ樹は、支柱や添え木を補強し、倒伏や樹体の損傷、落果を防止する。

オ モモ等の立木性果樹では、主枝や垂主枝等の太枝が折損しないよう支柱で固定する。

カ 高接ぎした樹では、接いだ部分から折れやすいので添え木をする。

キ 園内に水が溜まらないように排水溝を掘る等、十分な排水対策を行う。

② 事後対策

ア 果実のすり傷、葉の裂傷等から病害発生のおそれがある場合は、速やかに適用薬剤を散布する。なお、薬剤散布にあたっては使用基準を厳守する。

イ 浸水、滞水している園では、速やかに排水溝を掘るなど排水に努める。

ウ 倒伏や傾いた樹は、出来るだけ早く起こして盛土と支柱で固定し、かん水やマルチを行って新根の発生を促す。

エ 太枝が裂けた場合は、針金やボルト等で固定する。回復不能な場合は切り落とし、切り口に塗布剤を塗る。

オ 枝の損傷や落葉が甚だしい樹では、果実肥大や品質が低下するので再度着果数の見直しを行う。

カ 落葉が激しい場合は、幹や太枝に石灰乳等の白塗剤を塗布し、日焼けを防止する。

キ 樹勢回復のための追肥は、被害直後には行わず、樹勢に応じて施用する。

6 花 き

(1) 共通事項

① 事前対策

ア 湿害の発生しやすいほ場では、周囲に排水溝を設け、速やかに排水できるようにしておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、必要に応じて土のう積み等の防水対策を図る。特に、転換畑は排水対策に万全を期す。

イ ハウスは必要に応じて補強・破損箇所の補修等を行い、風で飛ばされないよう対処する。

ウ 倒伏しやすいキク等の切り花類では、十分土寄せを行いネットや支柱を補強しておく。

② 事後対策

ア 冠水、浸水したほ場では、すみやかに排水に努める。

イ 茎葉に付着した土砂は動力噴霧機等で洗い流し、生育促進を図る。

ウ 切り花類等で株元が土砂で埋まって深植え状態になったものは、早期に土砂を取り除き天候の回復を待って浅く中耕する。

エ 切り花類の倒伏したものは、できるだけ早く起こし茎や花穂の曲がりを防ぐ。

オ 枝物類・切り花類は、強風によって折損した茎葉の整理と薬剤散布を的確に行い、病害の発生を防止する。

また、茎葉の欠損等で草勢が低下した場合、被害状況に応じて肥培管理を行い生育の回復に努める。